

都市生活者意識調査—2013—

第6回 都市生活者の
現在の日本の社会イメージ
と近未来の日本イメージ

マーケット・プレイス・オフィス代表 立澤芳男(たつざわよしお)

■流通系企業の出店リサーチ・店舗コンセプトの企画立案/
都市・消費・世代に関するマーケティング情報収集と分析

■現ハイライフ研究所主任研究員・クレディセゾンアドバイザー
—スタッフ

■元「アクロス」編集長(パルコ)/著書「百万人の時代」(高木
書房)ほか

第6回(最終回) 都市生活者の現在の日本の社会イメージと近未来の日本のイメージ

ハイライフ研究所「都市生活者意識調査 2013」の結果から

いつでも・どこでも世界とつながる情報化社会になるが、格差社会は継続する

今年4月1日に3%の消費税増税が実施された。増税後の消費の動向を見ると、駆け込み需要の反動減や税率アップの影響は想定内での動きになっているようだ。生活者にとって増税は家計に大きな影響を与えるが、今回の消費税アップはここ2、3年前から議題になっており、アベノミクス効果で昨年からの所得や雇用環境が改善されており、生活が苦しくなったという話はほとんど出てこない。まだ増税後1ヶ月も経過していないが、夏ごろまでには駆け込み需要による反動減は収まりそうで、今春より今年の秋口の景気はどうかというのが話題の中心になっている。

そのような話題が飛び交う中、生活者は消費税増税を上手く乗り切っていくに違いない。

しかし、約20年間にわたって不景気な時代を過ごしてきた人たちに、政財界が言う「景気の良い強い日本」を受け止める余裕があるのかどうかは疑問だ。消費税増税は乗り越えるかもしれぬが、生活者はどのように現在の日本社会を認識しているのか、あるいはどのような将来展望を持っているのかを冷静に認識しておく必要がある。果たして現自民党政権が描く「強い日本社会イメージ」と生活者の現在社会の認識や将来展望とはギャップはあるのかないのか見ておく必要がある。

今回のレポートは、過去の増税時に比べてみると冷静な消費行動が見られる現在の都市生活者だが、長く続いた不景気な社会で過ごしてきた都市生活者が現代の日本社会をどう認識しているのか、さらに将来展望はどのようなものかを、ハイライフ研究所「都市生活者意識調査 2013」の結果をみながら、確認する。

今回のレポートは、都市生活者がイメージしている現代社会と近未来の日本についての調査結果である。

目次

はじめに

I—都市生活者の皮膚感覚で見る現在の日本社会p. 3

増税と値上げが続く現在の日本だが、とりあえず消費増税はのりきりが……。

II—都市生活者の現在の日本社会のイメージp. 5

格差の拡大と自由な社会。実力主義化が進む日本の社会？

<男女別年齢別で見る「現代社会のイメージ」>

III—都市生活者の近未来の日本のイメージp. 8

情報化社会になるが、社会の将来展望はよくわからない

* 執筆者メモ(p. 12)

都市生活者意識調査概要

調査の概要

■調査実施;2013年9月27日(金)~10月15日(火)実施、

■調査サンプル;N=1800[東京=1125+大阪=675]

▼調査サンプル数 計 1800 名				世帯年収	1800	100%
東京地区	1125	大阪地区	675	世帯年収:200万円未満	109	6.1
				200万円~300万円台	300	16.7
男性	904	女性	896	400万円~500万円台	413	22.9
13~19歳	71	13~19歳	68	600万円~700万円台	267	14.8
20代	137	20代	133	800万円~900万円台	192	10.7
30代	186	30代	180	1000万円~1100万円台	102	5.7
40代	170	40代	160	1200万円~1500万円台	36	2.0
50代	132	50代	130	1600万円~2000万円台	7	0.4
60代	152	60代	162	2100万円以上	4	0.2
70~74歳	56	70~74歳	63	わからない	370	20.6

都市生活者意識調査レポート連載テーマ

- 第一回 アベノミクス&消費税増税について(11月)
- 第二回 アベノミクスと都市生活者の反応(12月)
- 第三回 消費税増税と都市生活者の反応(1月)
- 第四回 都市生活者の生活意識や生活観の現況(2月)
- 第五回 都市生活者のふところ事情(3月)
- 第六回 最終回/都市生活者の現在の日本の社会イメージと近未来の日本のイメージ(4月)

第6回(最終回) 都市生活者の現代社会イメージと近未来の社会イメージ

ハイライフ研究所「都市生活者意識調査 2013」の結果から

いつでも・どこでも世界とつながる情報化社会になるが、格差社会は継続する

増税と値上げが続く現在の日本。とりえず消費増税はのりきるが、その本音はどうか？

消費税増税が始まった。増税後の消費については、内閣府は、消費税引き上げ後の4月の経済動向について、「自動車や百貨店販売など、幅広い分野で駆け込み需要の反動が表れている」とした結果を明らかにした。民間調査会社の聞き取り調査でも、家電の販売額は3月に前年実績より9割増えたが、4月第1週は2割減った。自動車の業界団体も「大きく落ち込んでいる」という。一方、「新車の予約状況は好調で、押し上げに期待したい」(自動車)、「食料品は反動減が長引くとは考えにくい」(食品スーパー)など、前向きな意見もある。増税後1カ月を見ると、駆け込み需要の反動減は一応想定内で収まっているようだ。大きな混乱は見られない。

本調査でも消費税増税後は消費を控えるという意見が多数見られたが、都市生活を中心とする消費者に於いては、過去の増税時に比べてみると冷静な消費行動が見られる。この冷静な消費行動は、長く続いたデフレ社会で学習されてきた消費行動と言ってよいのではなかろうか。その長く続いたデフレ社会で、

消費税率アップ後の消費行動(MA)	計	東京	大阪	男性	女性
不要不急のものは買い控える	48.3	49.1	47.0	45.5	51.1
消費する(買う)量を減らす	44.4	44.5	44.3	41.2	47.8
特に変わらない	29.3	29.1	29.6	33.1	25.4
今より価格の安いものを買う	27.1	27.7	26.1	27.8	26.5
中古やリサイクル商品の購入を検討する	7.9	7.6	8.3	8.0	7.8
通販を利用する等をして、消費税分を浮かせる	6.7	6.8	6.7	6.1	7.4
調査数	1800	1125	675	904	896

都市生活者の基本的な社会認識はどうなっているのか、ハイライフ研究所「都市生活者意識調査 2013」の結果をみながら、ここで確認をしておこう。増税と値上げが続く現在の日本だが、以下、都市生活者がイメージしている現代社会と近未来の日本について聞いた結果を見てみる。

I. 都市生活者の皮膚感覚で見る現在の日本社会

都市生活者は、現在の社会を基本的にどう認識しているのかを聞いてみた。

社会の基本的認識を詳細に確認するには様々な調査を待たなければならないが、ここでは、生活者の直感的な認識、つまり日常的に気になること、例えば、『今の社会は平等なのか』『損している世代は』などという日常的な皮膚感覚をきいてみた。質問項目は、「世の中の平等感」「損をしていると思う年代」の二点である。

1) 世の中の平等感について、

日本の社会は、どちらかも含め「不平等な社会」だと約7割の人が思っている

日本の社会の平等感、すなわち「世の中の平等感」について聞いてみた。「平等」だと御答えた人は、トータルで僅か0.6%、「どちらからといえば平等だと思う」を含めても23.7%である。それに対して、「不平等だと思う」だけでほぼ同数の23.6%、「どちらからといえば不平等だと思う」を加えると、約70%にも及ぶ。

	世の中の平等感				
	平等だと思う	どちらかといえば平等だと思う	どちらかといえば不平等だと思う	不平等だと思う	わからない
TOTAL	0.6	23.1	46.2	23.6	6.6
東京	0.7	23.8	46.1	23.1	6.2
大阪	0.4	21.8	46.2	24.4	7.1
男性	1.0	25.6	41.2	26.2	6.1
女性	0.2	20.5	51.2	21.0	7.0

地域別でみると、大阪のほうが東京より若干であるが「不平等感」を持つ人が多く、男女別では、男性のほうが女性よりも「平等感」を強く持つ人が多い。

社会の平等・不平等感は、年齢によって大きく異なる

「世の中の平等感」について、年齢別でみると、「不平等である」と明快に答えた人が多かったのは、男性20代で35.8%、続いて男性30代で29.0%となっている。女性では、30代が最も多く、26.7%となっている。60歳以上の高齢者は「世の中は不平等だと思う」が10%台で他の世代に比べかなり少ない。



2) 現在の日本の社会で最も損をしている年代は？

男女30代は、自他共に、自分たちが最も損をしている世代だと感じている

『損をしている世代』について、聞いてみた。トータルで見ると、30代が40.4%と最も高く、続いて20代(37.4%)、40代(35.4%)と続く。損をしている世代だと感じているのは20~40代に偏り、50代以上の世代との差は大きい。

男女・年齢別でみると、基本的には自分の年齢世代が最も損している世代と答える人が多いが、中でも男女ともに「30代」は自分の年齢世代が最も損している世代だと感じており、そのスコアは男30代が67.7%、女30代が66.1%となっている。また、データ表をクロスして眺めてみると、30代の親世代に当たるであろう60代以上の人たちは、自分の息子・娘たちの世代に対して『損している世代』という認識を強く持っていることが見てとれる。

▼損をしていると思う年代(MA)									
	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	損をしている年代なし	わからない
TOTAL	22.1	37.4	40.4	35.4	19.5	11.3	4.8	1.0	22.3
男・13~19歳	29.6	16.9	15.5	12.7	9.9	5.6	4.2	0.0	50.7
男・20代	32.8	66.4	31.4	14.6	5.8	1.5	2.9	0.7	18.2
男・30代	31.2	52.7	67.7	28.5	8.1	2.2	2.7	0.5	11.8
男・40代	27.6	43.5	47.1	65.3	21.8	5.9	5.9	0.0	14.7
男・50代	28.8	37.1	34.8	36.4	43.9	9.1	5.3	0.8	15.2
男・60代	11.2	27.0	38.2	28.9	20.4	28.9	2.0	3.3	19.1
男・70~74歳	7.1	21.4	21.4	30.4	16.1	16.1	14.3	5.4	25.0
女・13~19歳	19.1	17.6	10.3	11.8	5.9	4.4	4.4	1.5	64.7
女・20代	23.3	54.1	36.1	18.8	11.3	4.5	2.3	0.8	30.1
女・30代	23.9	38.9	66.1	42.2	16.1	8.3	3.3	1.1	19.4
女・40代	25.6	30.6	38.8	63.1	14.4	3.1	4.4	0.0	16.3
女・50代	16.2	38.5	33.8	42.3	48.5	13.1	2.3	0.0	19.2
女・60代	10.5	22.2	32.7	27.8	21.0	38.3	5.6	0.6	25.3
女・70~74歳	3.2	11.1	28.6	39.7	28.6	15.9	23.8	3.2	31.7

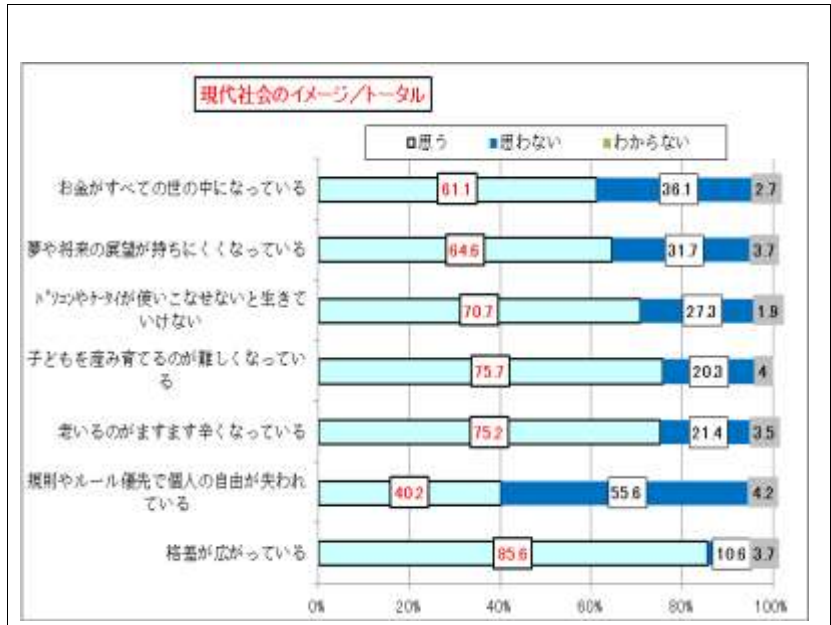
Ⅱ. 都市生活者の現在の日本社会のイメージ

現在の日本の社会イメージを見るため、東京大阪在住者 1800 名に、以下の7項目を提示しその認識度を聞いてみた。

▼格差の拡大と自由な社会。実力主義化が進む日本の社会？

右図では、質問肢での〈そう思う〉と〈ややそう思う〉を加えて「思う」とし、〈そう思わない〉と〈ややそう思わない〉を加えて「思わない」としたが、それによると、『格差が広がっている』と「思う」(85.6%)のスコアが最も大きかった。

一方、「思う」のスコアが最も低かったのは「今の社会は、規則やルール優先で個人の自由が失われている」(40.2%)であった。何事でも自由なのだが、格差が広がっているというのは、裏返して読めば、日本が「実力優先主義な社会」になりつつあるということを示唆するのではないだろうか。



▼『少子高齢社会』と『情報社会』と『格差社会』とが三つ巴で併存する現在の日本社会

質問肢の中で、強く意思を表明していると思われる回答『そう思う』で答えた人たちが、現代社会のイメージ項目でトップに挙げているのは、トータルでは、第1位は「今の社会は、格差が広がっている」(34.7%)、第2位は「今の社会は、子どもを産み育てるのが難しくなっている」(28.5%)、同じく「今の社会は、老いるのがますます辛くなっている」(同)、第4位に「今の社会は、パソコンやケータイが使いこなせないと生きていけない」(28.0%)となっており、いずれも25%を超えている。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
1)今の社会は、格差が広がっている	①34.7	50.9	9.8	0.8	3.7
2)今の社会は、規則やルール優先で個人の自由が失われている	⑦9.6	30.6	45.8	9.8	4.2
3)今の社会は、老いるのがますます辛くなっている	②28.6	46.6	17.1	4.3	3.5
4)今の社会は、子どもを産み育てるのが難しくなっている	②28.6	47.1	17.0	3.3	4.0
5)今の社会は、パソコンやケータイが使いこなせないと生きていけない	④28.0	42.7	20.4	6.9	1.9
6)今の社会は、夢や将来の展望が持ちにくくなっている	⑤20.1	44.5	26.4	5.3	3.7
7)今の社会は、お金がすべての世の中になっている	⑥17.2	43.9	30.3	5.8	2.7

以下、現代社会イメージを質問項目ごとに、『そう思う』を軸に、男女年齢別に見てゆく。

▼男女別年齢別で見る現代社会のイメージ

ここでは、各項目に対して「そう思っている人の年齢別のスコアを拾っている。

1) 今の社会は、格差が広がっている

**男性 40代と女性 30代で「そう思う人」が多く、
疑問が残る貢献度と評価のバランス**

男 40代が 44.7%と最も高い。女性では 30代
の 39.4%が最高値である。男女ともに現役世
代として仕事や家事の中心的な役割をしており、
どの世代よりもその責任と負担は重い。

自分たちの貢献度とその評価のバランスが
取れていないのかもしれない。



2) 今の社会は、老いるのがますます辛くなっている

**子離れ直前の世代の男女 40代が高スコア。
なかなか老後の準備に入れない**

男性は 40代(34.7%)、女性は 40代
(33.8%)のスコアが最も高い。中高年世代に
達する 40代は、子供の世話から解放されるが、
高校・大学などでの出費も多く、自分たちの老
後の生活の準備にはまだ踏み切れない世代。
年金問題も未解決の中で、『老い』は重くのし
かかっているに違いない。一方、女性の中高
年や高齢者は、老後に対する心配が大きく浮
上している。30代以降概ね女性のほうが「そ
う思う」人が多い。



3) 今の社会は、子どもを産み育てるのが難しくなっている

**子育て世代と子離れ世代の経験のある無し
で意見が分かれる**

女性は、「そう思う」という人は 40代まで多
いが、50代になると急に少なくなる。子育てを
終えた人たちと子育て中という経験の差がそこ
に見られる。男性は全世代で、「子どもを産み
育てるのが難しくなっている」と思う人が多い
る。



4) **今の社会は、パソコンやケータイが使いこなせないと生きていけない**

女性のほうが高スコアである。人任せでは生きていけない社会だ

世代の差異が最も出た項目で、男女ともに若い世代ほど高く、年齢が上がるほど「そう思う」のスコアは下降してゆく。20代の男女は「そう思う」が40%台を超える。50代以降は10%台にとどまる。

注目したいのは、男性より女性の方が「パソコンやケータイが使いこなせないと生きていけない」と思っている人が多く、しかも高齢者に多いことだ。



5) **今の社会は、夢や将来の展望が持ちにくくなっている**

社会を悲観的に捉えがちな男性に対して女性は冷静に受け止めている

「夢や将来の展望が持ちにくくなっている」と思うという人が多いのは、男20代前後の世代であるが、40代の男性も23.3%とスコアは高い。50代以降になると「そう思う」という人は少なくなってゆく。それに対して女性の場合は、スコアの高低の差は比較的少なく、全般的に現実を冷静に見つめているようだ。



6) **今の社会は、お金がすべての世の中になっ**

ている

『お金がすべての社会だ』と肯定するのは、男性の20代前後の世代と、65歳以上の高齢者男女だ。いずれも20%を超えており、安定的な収入が得にくい境遇にありそうな世代だ。一方、男女ともに50代は、否定的で10%前後のスコアになっている。

どの世代を見ても、女性は男性よりもスコアが全般的に低い



Ⅲ. 都市生活者の近未来の日本のイメージ

日本の近未来のイメージについて聞いてみた。あらかじめ22項目の社会イメージを提示、1800名にマルチアンサーで答えてもらった結果である。

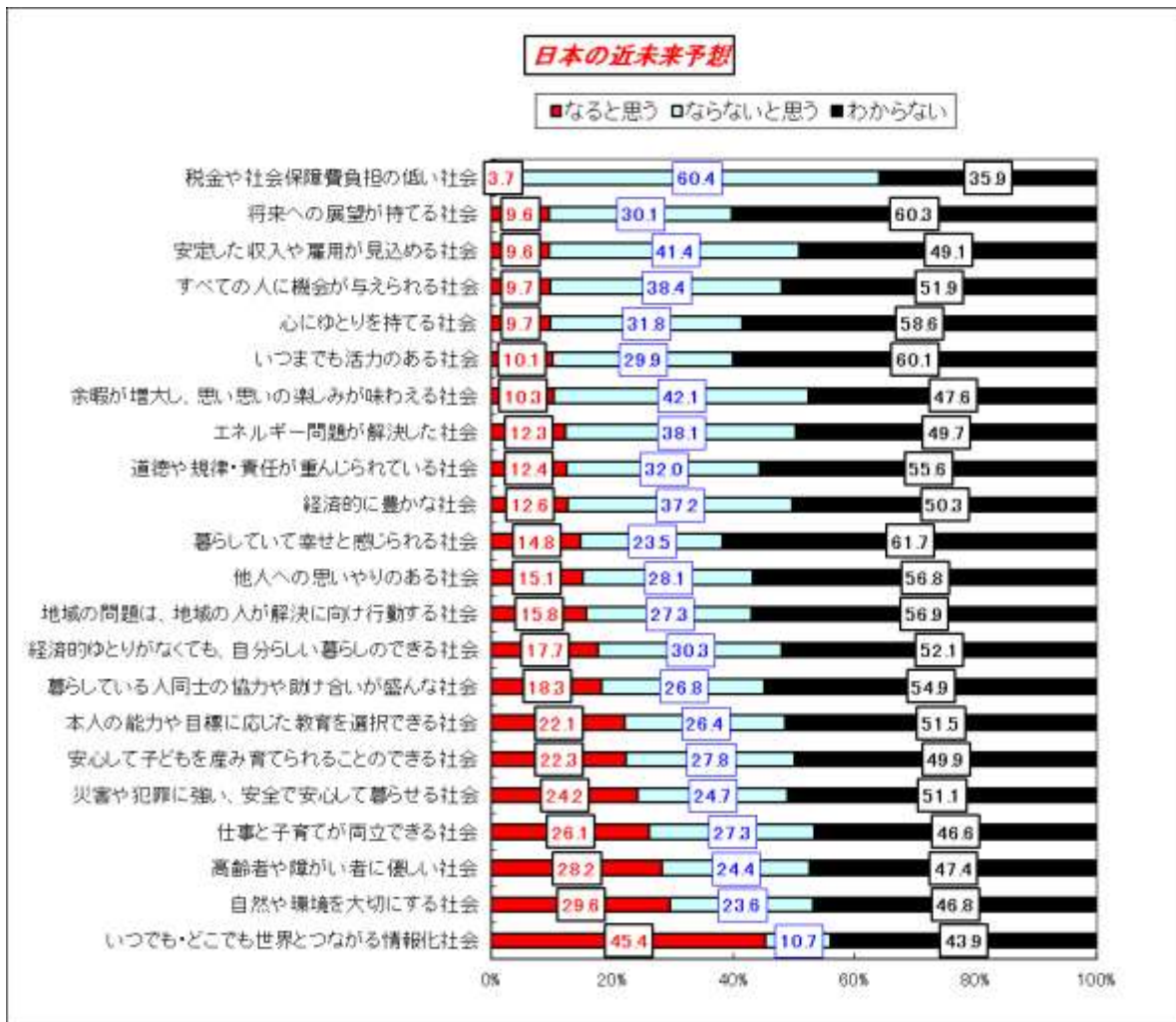
将来は「わからない」とあまり関心はなさそうだが、少なくとも良いイメージは描いていない

マルチアンサーを見ると全体的には、各項目において「わからない」と答えた人は50%前後となっており、将来をイメージする、あるいはどう考えるのかについての関心はあまり持っていないようだ。しかし、関心が弱いものの、強く反応した項目はいくつかある。

例えば、「いつでも・どこでも世界とつながる情報化社会」に「なると思う」と答えた人は45.4%となった。また、一方、「ならないと思う」では、「税金や社会保障費負担の低い社会」が60.4%と高い反応を見せている。

「なると思う」が「ならないと思う」をポイントで上回ったのは、「いつでも・どこでも世界とつながる情報化社会」以外には、「自然や環境を大切にする社会(なる29.6%、ならない23.6%)」、「高齢者や障害者に優しい社会(同28.2%、同24.4%)」の二項目しかない。それ以外の項目では、「思わない」が「思う」を大きく上回っている結果となっている。

近未来が、豊かで、期待が持て、個人を大切にするような社会にはならないという思いは強い。アベノミクスによる成長戦略だけでは解決できそうにもない。20数年間でデフレに苦しみ、格差や不平等が顕在化してしまった都市生活者の自律的なあるいは自立的な再生能力は未だ眠り続けているようだ。



▼都市生活者の近未来予想

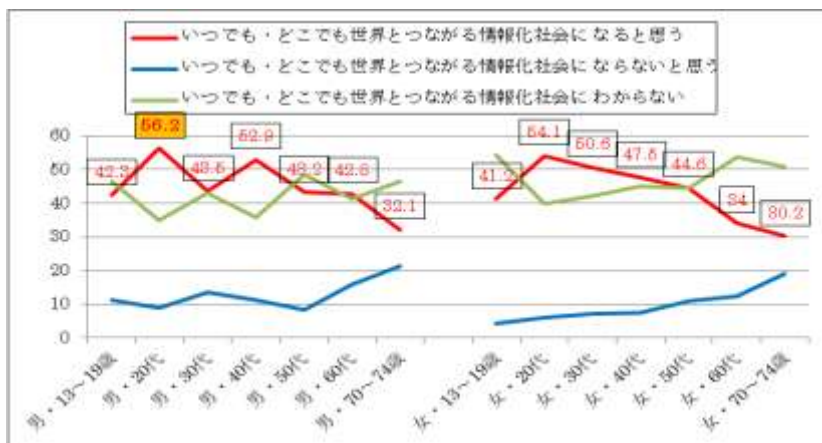
「なると思う」で最も多かった項目は、「いつでも・どこでも世界とつながる情報化社会」で 45.6%に達した。しかし、その他の項目は全て 30%以下となっている。一方、「ならないと思う」項目では、「税金や社会保障費負担の低い社会」という項目が 60.4%に達し、続いて「余暇が増大し、思い思いの楽しみが味わえる社会」「安定した収入や雇用が見込める社会」が 40%台のスコアになっている。

なると思う 近未来予想(トータル)		
1位	いつでも・どこでも世界とつながる情報化社会	45.4
2位	自然や環境を大切にする社会	29.6
3位	高齢者や障害者に優しい社会	28.2
4位	仕事と子育てが両立できる社会	26.1
5位	災害や犯罪に強い、安全で安心して暮らせる社会	24.2
6位	安心して子どもを産み育てられることのできる社会	22.3
7位	本人の能力や目標に応じた教育を選択できる社会	22.1
8位	暮らしている人同士の協力や助け合いが盛んな社会	18.3
9位	経済的ゆとりがなくても、自分らしい暮らしのできる社会	17.7
10位	地域の問題は、地域の人々が解決に向け行動する社会	15.8

ならないと思う 近未来予想(トータル)		
1位	税金や社会保障費負担の低い社会	60.4
2位	余暇が増大し、思い思いの楽しみが味わえる社会	42.1
3位	安定した収入や雇用が見込める社会	41.4
4位	すべての人に機会が与えられる社会	38.4
5位	エネルギー問題が解決した社会	38.1
6位	経済的に豊かな社会	37.2
7位	道徳や規律・責任が重んじられている社会	32.0
8位	心にゆとりを持てる社会	31.8
9位	経済的ゆとりがなくても、自分らしい暮らしのできる	30.3
10位	将来への展望が持てる社会	30.1

—男女年齢別でみる日本の近未来—

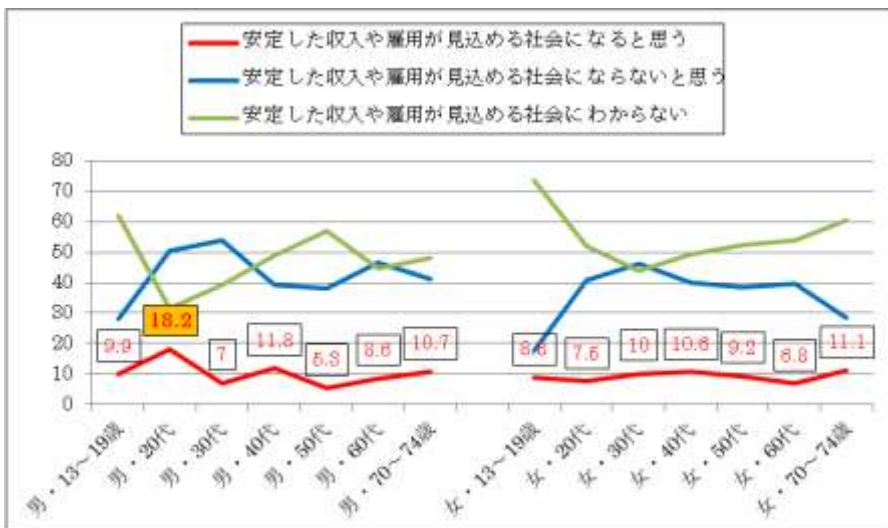
▼いつでも・どこでも世界とつながる情報化社会 「なると思う」が「ならないと思う」を大きく上回った。唯一の堅い未来



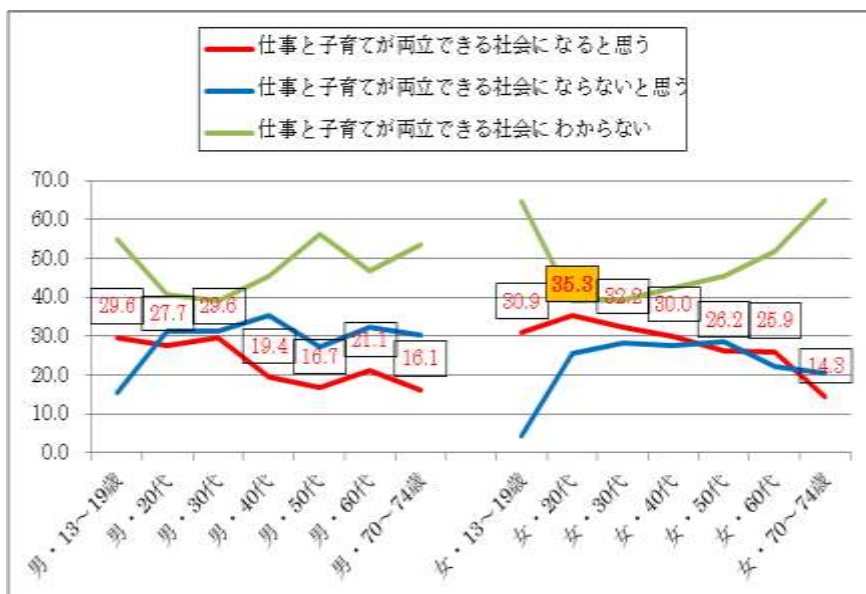
▼経済的に豊かな社会 「なると思う」は 10%台に止まり、「ならないと思う」が 30%台にもなっている



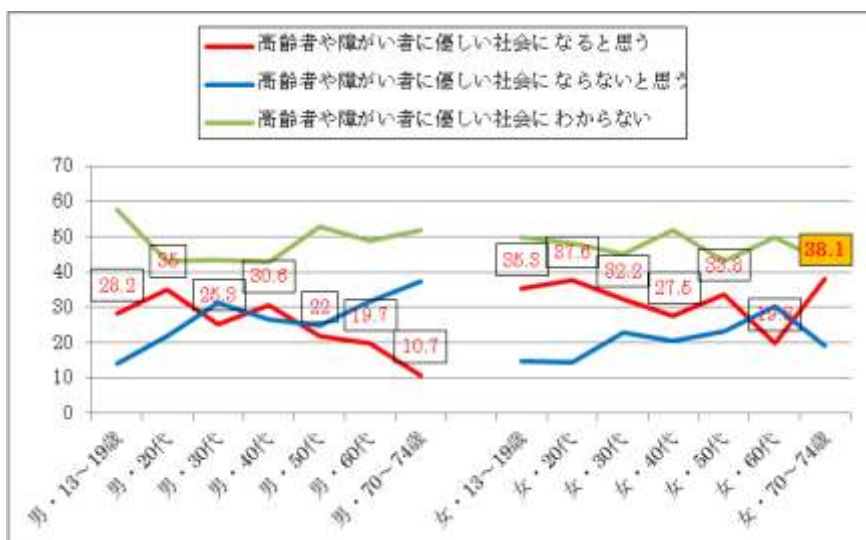
▼**安定した収入や雇用が見込める社会** 20代から60代までが不安感を持つ。「ならないと思う」が40%台に



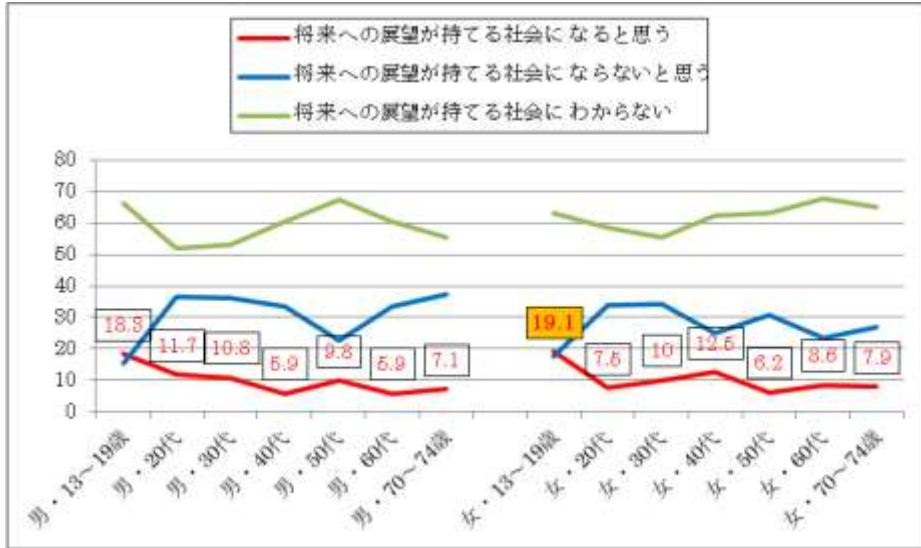
▼**仕事と子育てが両立できる社会** 女性は「なると思う」が多いが、20, 30代には強い期待感がありそう



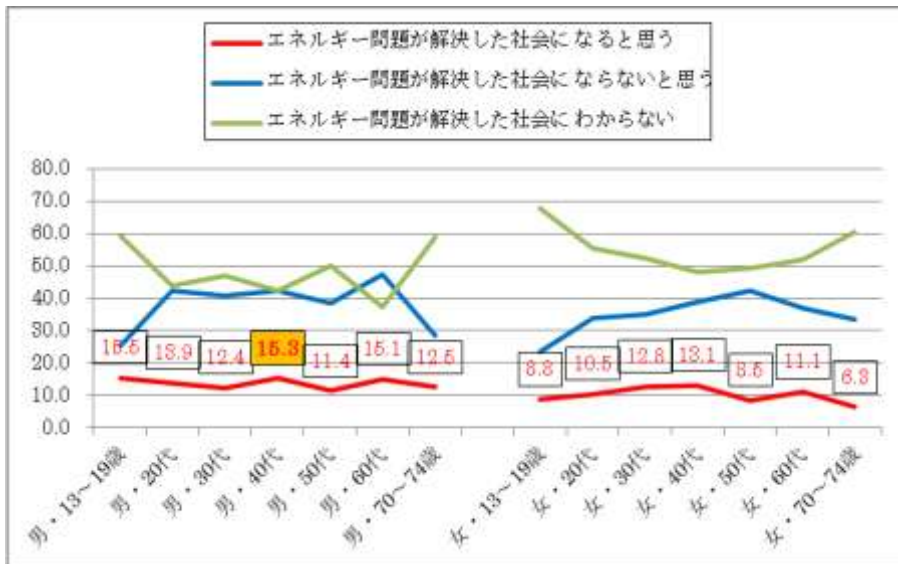
▼**高齢者や障害者に優しい社会** 女性は「なると思う」が多いが、男性は「ならないと思う」人が多い



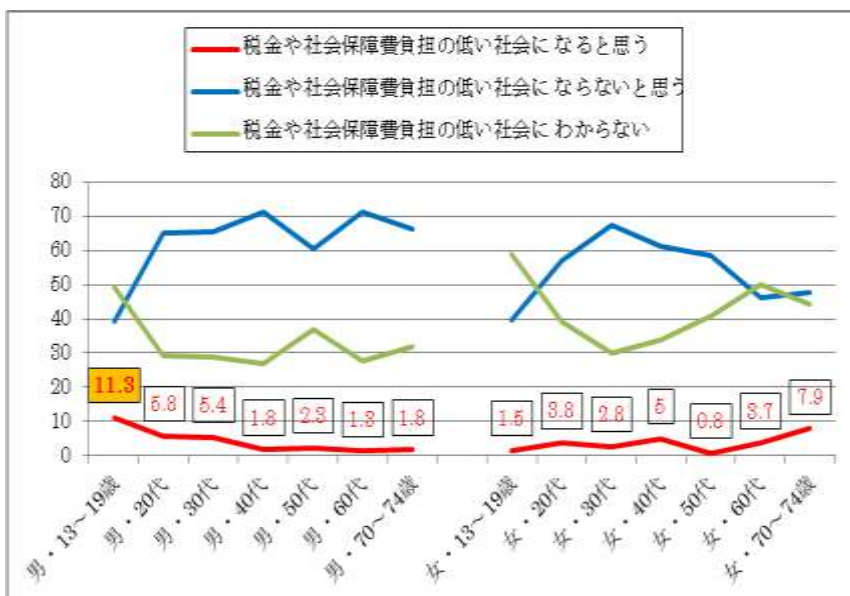
▼**将来への展望が持てる社会** 男女年齢問わず「希望が持てない将来の日本」のイメージを持っている



▼**エネルギー問題が解決した社会** 男女ともに「日本の将来は、エネルギー問題は解決していない」と考えている



▼**税金や社会保障費負担の低い社会** 自己負担が増えることを懸念する老若男女の都市生活者



安倍首相の発言は強気がモットーのようだ。競争相手である野党側はそれに対し何も言えないでいる。また、賃上げを要求する安倍首相に対して経済界・労働組合のトップは反論もせずお礼ばかりを言っている。マスコミも世界各国を飛び回る安倍首相についてゆくのが精一杯だ。今や安倍首相は一人楽しんでいるようだ。そのことは決して悪いことではない。久しぶりに物事をはっきり言うリーダーの登場だからである。もっともここ数年の最高権力者には無能とも言われた総理大臣が続いたからだろう。

今の社会はいかにも忙しい。日本を取り巻く環境は、世界では米国(TTPP)、中国(尖閣諸島)、韓国(朴大統領)、北朝鮮との衝突があり、国内では消費税増税、電力料金アップ、XPソフトの終了、みんなの党の混乱がある。また、日本のペーターベンが実は偽物だったとか、ノーベル賞ものとも言われた細胞発見の論文が実は間違った内容であったなどなど、とんでもないことも起きている。みんなここ1年間の間に起こったことだ。

この1年間の出来ごとを目の当たりにすると、もはや5年前の総理大臣と東京都知事の名さえ浮かばない。3年前の東北大地震や福島原発問題は昔の話のような気もしてくる。さらに日本の経済危機と言われた出来事であった5年前のリーマンショックって何だったのだろうかとか記憶が飛んでしまっている。この忘却の生みの親は、『アベノミクス』を繰り返し発する安倍総理である。

この1, 2年は安倍総理に世の中が振り回され、総理の行動スピードについてゆけず、どこか日本の社会は思考停止に陥っているのではないかという印象がある。日銀黒田総裁のいう『異次元の世界』に持って行かれたのかもしれない。

今回、昨年の生活者意識調査で『都市生活者の日本の社会イメージと近未来イメージ』についての結果ををレポートしたが、確かに今の都市生活者は思考停止状態に陥っているように見える。調査項目についてのアンサーを見ると全体的には、『日本の社会イメージ』や『近未来イメージ』については、「よくわからない」と答える人が50%前後いた。調査の方法にも問題があるのかもしれないが、客観的に自分の立場を考えてみることにあまり関心は持っていないようだ。

確かに、今の都市生活者は、思考停止になっているのかもしれない。それは、逆に言えば、飢餓をイメージするほどではない不景気な生活が約20年間続き、安心できる生活ができなかったために、自分や家族や勤務先の身の回りのことに精一杯努めてきた結果、客観的なことは後回しにすることになったのだろう。

思考は停止状態にあるかもしれないが、本調査で明確になったことはある。

日本の社会は不平等で格差が広がっており、そして自分の世代が最も損しているということは意識しており、また、日本社会は格差の拡大と自由が共存しているが、実力主義化が進む社会だという現状認識である。また、

日本の近未来については、「いつでも・どこでも世界とつながる情報化社会」になるという人が多いが、一方で、「税金や社会保障費負担の低い社会」にならないという。しかし、他の近未来については、あまり関心もなく、良い(明るい)イメージは描いていない。思考停止というより冷静であるといったほうが良いかも知れぬ。

20 数年間、デフレに苦しみ、格差や不平等が顕在化している中で生活している都市生活者の自律的なあるいは自立的な再生能力は未だ眠り続けているようだ。そして、はしやぎすぎているようにも思える強い安倍政権であっても、都市生活者の冷静さまでも奪い取ることはできていないようだ。

(記・立澤)

以上